

2010年度 社団法人櫃原青年会議所 理事長所信

理事長 吉村 之宏

光輝を放つ未来を創造 Get Our Future !

未来は時間と共に訪れます。光輝な未来、陳腐な未来。
もし、選択権を与えられたとき彼方はどちらを選びますか？

言わずと光輝な未来を選ぶことでしょう。

しかし、望むだけでは夢は叶わないのです。
自らが夢を抱き、自らが目標に向かってプライド高く「考動」したとき、
その未来は実現するのです。

さあ、JAYCEEよ、光り輝く未来のために・・・
夢と希望に満ち溢れた笑顔に出会うために・・・
今できることから始めよう！
時代に新風を巻き起こそう！

Get Our Future !

— 「まち」を愛する気持ち —

私たちのテリトリーは歴史や文化、人々に恵まれた豊かなまちです。こうしたまちだからこそ気付かない中に、まだまだ沢山の教えが込められているように感じます。このポテンシャルを十分に活かすことができれば、私たちの住むまちはより一層活気が増し、頼もしい「つよいまち」になると考えます。改めてまちの素晴らしさを発見してみませんか。学ぶことも多いのではないのでしょうか。たとえば、私たちのまちにはたくさんの文化遺産があります。そんな事を意識せずまちを歩くより、知ればもっと興味が湧くはずです。まず、まちが好きになる何か良いところを発見しましょう。身近なところから掘り起こせば、意外な魅力が生み出されるかもしれません。同時に、「私たちのまちが大好き！」といえるひとの創造に繋がることでしょう。みんなでまちの個性を共有し、自慢や誇りを伝播すれば、自然とまちを愛する気持ちや育成心も、もっと生まれるはずです。

櫃原夢の森フェスティバルは、第9回を迎えようとしています。地域住民から「夢フェス」と愛され親しまれている中で、今後も進化させていかなければなりません。

この時代に何が必要とされ、どのように変化しなければならないかを改めて思考し、10回目の節目の年である2011年には、新たなる夢フェスへと進化させる力強い気持ちを持たないかぎり、この「まつり」は衰退していくことでしょう。

本年度は、先人より培われた過去を検証すると同時に、新たな道標を提言し“奈良を代表する「光輝なまつり」”へと進化してまいります。

私たちの「まち」を活性させるのは、私たちの務めです。
私たちの「まち」を想う気持ちは、生まれ育てられた「まち」への感謝の気持ちです。

— この時代を乗り切るために —

日本社会はグローバル化し、価値観やシステム、生活スタイルも多様化しているこの時代、個性は宝と尊重するように変容しています。また、企業においても団塊世代の引退から世代交代は始まり社会の構造は変わりつつあります。この大きな変化の中、100年に一度と言われる大不況が訪れ、私たち地域のあらゆる企業でも多くの困難な経営課題が生起しています。そして、この問題を解決する経営実践がいま求められているのです。

日本社会の発展や、この不況を乗り切るために何よりも求められることは、独自の発想力と対応力ではないでしょうか。この「ちから」を備えるのは「ひと」です。専門性、創造性に満ち溢れ、独自の問題解決を図ることのできる「ひと」は、組織の中で、信頼できる仲間として他者に影響を与える大きな存在となります。より多くの人に影響力を与える存在は、他者からその存在を必要とされ、ひいては社会を創り、生き抜く力を持った「光輝なひと」と認められることでしょう。

この時代を立て直すのも「光輝なひと」、未来を創るのも「光輝なひと」
「光輝なひと」の育成は明るい豊かな社会の実現に必要不可欠です。

— 次代を担う子どもたちに —

私たちの幼少の頃と現代の子どもたちがおかれている環境には違いは感じられますが、あまりにも細切れの生活をし、自ら体験する機会を失いつつあるのではないのでしょうか。ある子ども調査で、「外で火を燃やしたことがない」「虫をつかまえたことがない」「1時間以上歩き続けたことがない」「日の出や日の入りを見たことがない」という回答を目にしました。もちろん地域によって差はあると想いますが、現代の子どもたちは、自然とのふれあいが極度に少ないことがわかります。そして、自然体験や社会体験が減る反面、パソコンやゲームといった電子機器との接触が増えてきたのではないのでしょうか。その原因には、塾や習い事が忙しいとか、遊び場がなくなってきたとか、さまざまな考え方があるかと思えます。しかし、この環境は私たち大人がつくり出したものなのです。

文部科学省は毎年、体力・運動能力調査の結果を発表します。その中でここ数年、子どもたちの基礎的な運動能力が過去最低であることが記されています。この原因は、子どもたち自らの「体験」や「遊び」が少なくなっていることに繋がるのではないのでしょうか。また、より深刻な問題は、子ども同士の間関係が希薄になっていくことと私は考えます。子どもたちは、集団での遊びや体験から他人とのつきあい方を学びます。さらにそこからリーダーシップや上下関係から得る礼儀や言葉使いも習得できるのではないのでしょうか。

歪が生じはじめるこの現代において、私たち大人は結果を重く受け止め、子どもの未来を真剣にサポートしなければならないと考えます。

— LOMの価値の最大化 —

2008年12月1日の公益法人制度改革の施行に伴い各法人への5年間の移行期間が始まっています。私たち榎原JCはこの施行に先駆け2007年度から3年間、制度に対する知識や情報の共有化を図り討議を重ねてまいりました。この取り組みを礎とし、また新たなる知識を習得し、本年度はその進むべき方向を明確にいたします。そのためには、LOMの進化を図

るべく改革に向けたアクションプランを創建しなければなりません。私はそうすることが LOM の価値の最大化につながると考えます。

また、組織の価値を高める上で、私たちの活動を幅広く PR することも必要であると考えます。地域からの信用と信頼を得、私たちの活動に共感してもらうことで、他団体との信頼関係が生まれ、新たな発見と可能性が導き出されるのです。

さらに、素晴らしい活動をしている日本 JC の良き事業を検証し活用する、同時にその運営スタイルもリファレンスする。このような取り組みも私たちの組織進化の一助となり LOM の繁栄に繋がるはずです。

— 未来への原動力とあれ —

「われわれ JAYCEE は、社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築きあげよう」

私たちは、絶えずこの理念を掲げ活動に邁進しています。しかし、本当に共有され、また達成されているのでしょうか。想いを統一しない限り、本来そこから見出す可能性が生み出されないのです。目的と使命を共有し、私たちの活動の価値を高める。そうすることで JC 運動の更なる進化となるはずです。今一度、考える機会をつくりましょう。地域・人を動かす大きな原動力に繋がるはずです。

私たちの潜在するパワーを引き出しプライド高く「考動」しよう。必ず光輝な社会が訪れます。

— 「ちから」の源 —

JC 運動を広く伝播する上で、また組織を存続していく中で、最も必要であると考えられるのは会員拡大ではないでしょうか。一人より二人、十人より二十人・・・
たくさんのメンバーで“幸せ”を語ることは光輝な未来への創造力に繋がるのではないのでしょうか。

2010年は、ここ最近の稀世のメンバー拡大と、卒業生が少数であったことも重なり70名を越えるメンバーとともにスタートをきれます。近畿地区内を見渡しても、このメンバー数で活動を行っている LOM は少なく思えます。自信を持って取り組めば近畿地区を代表する行動力のある LOM になるはずです。プライドを持って行動しましょう。私たちの組織に・・・

しかし、この2～3年でおおよそ30名が卒業されます。メンバー数は体力です。体力の衰えは、精神力をも奪っていきます。この現状を放置したとき、蓋を開ければ体力も精神力もない LOM に変貌しているのです。諸先輩たちが培われた伝統と秀逸な歴史を守りつつ、さらなる文化の発展を図るためにも、この現状を真摯に受け止め会員拡大に全力を注いでいきましょう。

また、精神力の増強から体力のアップに繋がることも忘れてはなりません。精神力をつけるには、まず私たちの活動にプライドを持つことです。プライドを持った上で輝かしい活動を伝播する。そうすることで、理念を共有する青年の発掘に繋がるでしょう。

さらに、一致団結を考える上で会員相互の理解が必要不可欠と考えます。目的を達成するため、心と心が相通ずれば組織は纏まるのです。まず、己を律し「ひと」の気持ちを優先し活動しましょう。「ひと」に対する思いやりの心が相手の心に通じ、そこから強固な団結力が生まれるはずです。

「ひと」は、助ける「ひと」が多いほど「ひと」として成長します。

「ひと」は、「ひと」に助けられるほど感謝し「ひと」として成長します。

「ひと」は、「ひと」の宝です。

— おわりに —

『為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり』
一度しかない人生、気概を持って突き進もう。せつかく与えられたチャンスなのだから・・・

【 — 基本理念 — 】

光輝を放つ未来を創造 Get Our Future !

私たち JAYCEE は、「^{まち}地域」のため、「人」のために、
プライド高く「^{こうどう}考動」し、光輝な未来を創りあげる。

【 — 基本計画 — 】

- ☆ 公益法人制度改革の研究および改革に向けてのアクションプランの策定
- ☆ 会員数減少への対策並びに会員拡大の実施
- ☆ 次世代に夢と希望をあたえる事業の開催
- ☆ 理念を共有し目的意識の統一
- ☆ 継続事業のさらなる進化
- ☆ 「ひと」としての資質向上と育成
- ☆ 委員会の枠を超え、理論を超越するひとづくり
- ☆ JC 運動の素晴らしさを広く地域に伝播
- ☆ 日本 JC 並びに各協議会・LOM の情報受発信と連絡体制の強化
- ☆ 出向者への積極的支援